



学内広報

No.1303

2004.12.8
東京大学広報委員会



硬式野球部の松家卓弘投手がプロ野球横浜ベイスターズからドラフト指名（11ページに関連記事）

CONTENTS

特別記事	2
ICカードについて	
一般ニュース	5
東京大学教職員永年勤続者の表彰について、平成16年度「東京大学ホームカミングデイ」開催される、「東京大学外国人留学生特別奨学制度（東京大学フェローシップ）平成16年度研究奨励費受給者証書授与式」を開催、谷川温泉郷の最後の健康診療実施される、平成17年度入試に伴う臨時措置（本郷関係）について、平成17年度大学入試センター試験及び第2次学力試験（前期日程）の実施に伴う入構制限等の臨時措置（駒場関係）について	
キャンパスニュース	11
硬式野球部の松家卓弘投手がプロ野球横浜ベイスターズからドラフト指名	
部局ニュース	11
平成18年度大学院理学系研究科化学専攻修士課程入学試験（平成17年8月実施）について、農学生命科学研究科・農学部で外国人留学生見学旅行を実施、総合文化研究科・教養学部で留学生見学旅行を実施、平成16年度教育実習・介護等体験懇談会開かれる、東京大学21世紀COEプログラム「戦略的基礎創薬科学」第2回国際シンポジウム「生命科学の新展開と創薬」開催される、薬学部特別講演会“Distinguished lecture by Prof. Louis J. Ignarro”が開催される、医科学研究所で動物慰霊	

祭行われる、日本最初期の刊本である正平本『論語』の寄贈を受ける、生産技術研究所第13回技術発表会開催される、分子細胞生物学研究所動物慰霊祭行われる、第20回バイオテクノロジー懇談会を開催、物性研究所一般講演会開催される、第9回物性研究所国際シンポジウム開催される、総合研究博物館で平成16年度「学芸員専修コース」を開講

掲示板

冷凍庫、薬品棚内等の一斉点検について、柏国際キャンパス構想シンポジウムのお知らせ、年末年始の体育施設の受付業務、新しい「東京大学の歌」の歌詞の募集について、AGS年次総会及びWSC-SD年次総会への参加募集案内、第2回テレコミュニケーション、トレイマージョン、トレイグジスタンスに関する国際シンポジウム開催のお知らせ、大学院経済学研究科金融システム専攻修士課程の学生募集について、生産技術研究所学術講演会・産学連携フォーラム合同講演会「教育と産学連携を通じた大学の社会貢献」のお知らせ、年末年始の保健センターの診療日程のお知らせ、広報センター年末年始休館日のお知らせ

事務連絡

人事異動（教員）
 淡青評論「静寂から喧騒へーそして現実へ」

23
24

広報室 ICカードについて

広報室では、来年度から導入される計画のICカードについて、その導入趣旨や経緯などを石堂正信副理事・財務分析室長、岡部洋一情報基盤センター長・情報システム室副室長に取材しました。

<ICカードとはどういうものですか？>

Q（石川淳広報室副室長、以下、石川）東京大学では、来年度からICカードというものが導入される計画があると聞きました。本日は、財務担当の石堂正信副理事・財務分析室長と、大学の情報化を推進されている岡部洋一情報基盤センター長・情報システム室副室長にお時間をいただき、いろいろと伺うことにしました。よろしくお願いします。さて、さっそくですが、ICカードとはどういうものですか。岡部洋一情報基盤センター長・情報システム室副室長からお聞きしたいと思います。

A（岡部洋一情報基盤センター長、以下、岡部）ICカードというのは、JR東日本の非接触型カード、Suicaのようなものです。見た目は普通のカードと違いませんが、中に小さなICが組み込んであります。様々な機能を盛り込んだ便利なものになりますので、そこが今回検討している改良のポイントというわけです。いろいろなメリットがありますので、順を追ってご紹介しましょう。

今、検討されているのは、

第1に、**基本的に教職員証、学生証のことで**す。かつてはただのカードでしたが、数年前から経済産業省の実験に協力する形で、駒場の学生用のICカード導入を進めてきました。これにより、どの学生がどの学部に進学しても、引き続き1人の学生として認識することができます。大学としては、学籍データを効率よく処理することができ、コストダウンにつながります。また、事務作業が円滑なほうが、学生本人にとっても望ましいはずです。

第2の点として、皆様にご利用になる建物や図書館への入退館には、多くの場合**磁気ストライプの入退館カード**が使われています。この磁気ストライプを教職員証、学生証に合体することが、カードの多機能化の第一歩です。また、すでに一部の建物ではICカードによる入退館管理が実現されています。ICカードのほうが扱うデータ量が大きいので、防犯効果が大きいとされています。また非接触なので、長年にわたる安定した動作を期待できます。そこで、将来の使用に備えて、カードにICも仕込んでおくというわけです。

さらに第3の点として、このICカード機能を使えば、**学内キャッシュレスも実現できます**。現金を使わなくて

も、カードで支払いが済むのです。すでに、生協をはじめ、学内の各店舗のご協力をいただける予定になっています。支払いは、1ヵ月分をまとめて口座から引き落とします。

以上の3つの機能は、すべての教職員証、学生証に提供される機能です。

<クレジットカードが一体化するのですか？>

Q（石川）なるほど、大学にいますと、教職員証、学生証をはじめ、いろいろなカードを持ち歩かなくてはなりませんから、少しでも枚数が減れば、ありがたいです。ほかにも便利な機能が付加されるのですか？

A（石堂正信副理事、以下、石堂）今回、東京大学では、**クレジットカード**会社と提携することにいたしました。ICカードにクレジットカードとしての機能を一体化することによって、信用販売や経費処理を容易にすることができます。

まず、いわゆる**コーポレートカード**としてご利用いただけます。これがクレジットカード導入の主な理由なのですが、教職員の方々には、公的な費用、たとえば旅費および一般費の支払いに使うことができます。もうひとつ、今回は、普通に**私的使用**することもできるタイプとしました。

クレジットカードは、既にお持ちの方が多いと思いますが、東京大学のICカードは、公私分離した決済を可能にしていますから、1枚だけで両方の機能を持たせることができるのです。これらは、学内外を問わず、支払いのとき1枚のカードで済むということです。さらに、今後、学内の設備等を整えることによって、経費処理の手間を大幅に減らすことが可能になります。これは、教職員にとって朗報だと思います。

クレジットカードの所有形態はさまざまですので、教職員証との分離も選べるようになります。ただしその場合は、コーポレートカード専用となり、私的使用ができませんので、学内キャッシュレスは使えない等の制約が加わります。



ICカード体裁見本（表）



ICカード体裁見本(裏)

短時間勤務有期雇用職員用・学生用は、教職員証・学生証とクレジットカードが分離しますので、別のスタイルになります。

<1枚にする場合>

「ICカード・磁気ストライプ

+

クレジットカード(公私利用可・ゴールドカード)」

<2枚にする場合>

「ICカード・磁気ストライプ」

「クレジットカード(コーポレートカード機能のみ・ゴールドカード)」

<なぜ、経費節約になるのですか?>

Q(石川)なるほど、コーポレートカード機能が加わると便利ですね。しかし、いまやクレジットカードは誰でも持っているものではないでしょうか。あえて導入するのはどういうわけですか?

A(岡部)以上のような機能面のほか、実は大学の財政にも一定の貢献をすることが大きい要因です。さきほどの3つの機能を盛り込んだ教職員証、学生証は最新鋭のものになりますので、1枚あたりかなりのコストがかかるとされています。教職員と学生で4万人近くに新規製作するとき、仮に1枚当たり2千円であれば、8千万円もかかってしまう計算です。そもそもICカードの導入には、学内のデータ処理を効率化する狙いもあるのですが、そこにコストがかかるのは惜しい気がしていました。しかし、財務の方々とご相談するなかで、別途コーポレートカードの導入の必要があるとわかり、そこに新たな工夫の可能性が出てきました。

A(石堂)岡部先生からお話を聞きまして、ならばクレジットカード会社と組んでみてはどうかと思っていました。同じカードなのだから、クレジットカードと教職員証が合体して1つにできるのではないかと。もしそれができれば、機能満載で便利なカードになるはずですよ。そこで、まずは実現可能性を調べてみました。すると、各方面の最新の技術を投下すれば、成立するかもしれない、ということがわかりました。

そして、もし、一体となったカードをカード会社の側で用意していただけるならば、当方の費用が節約できる可能性があります。そこで、当方で必要な仕様書を整備して、公募を実施したというわけです。

この事例では、教育と研究に少しでも財源をまわしたい東京大学と、営業機会を得たいカード会社との利害が一致しています。新しいビジネスモデルといえるでしょう。

A(岡部)このカードは、技術的には当代最先端をいくもので、カード各社への要求はきわめて高いものでした。この公募が、カード会社の研究開発機会となった側面もあります。

<個人情報を守られるのですか?>

Q(石川)大学としての事情はよくわかりました。しかし、個人情報管理の点で弱いのではないのでしょうか。教職員の住所や所属などのほか、購買履歴などまでカード会社にもたらずのは相応のことでしょうか。また、カード会社にわたるデータ以外にも、お店の人に教職員証にある顔写真や、大学名を見られてしまいます。こうした点はコスト削減とは別次元で検討するべきではないでしょうか。

A(石堂)確かに、教職員証とクレジットカードとでは、本来の使用目的が違います。ただ、当然のことですが、私的使用は強制ではないので、購買履歴が心配な方は使用機会を選別することで情報を守れます。今回は、東京大学とカード会社の提携がベースになりますので、一般の個人加入に比べると、カード加入に必要な個人情報は限られています。さらに、コーポレート専用になれば、住所、引き落とし口座といった最低限の個人情報についてすら必要なくなります。

A(岡部)そのほかにも、カードを落としたときなど、顔写真があることによって悪用を阻止する効果があります。通常の使用シーンでも、顔写真があると本人確認がより確実になるメリットがあります。

A (石堂) それと、コストとの関係ですが、先ほど8千
万円ぐらいといった金額が出ていましたが、確かに小さ
くはないんです。ご存知のように、今後は運営費交付金
が毎年減っていくと考えておく必要があります。正直言
って大変きついです。たった1%程度といっても、東京大
学の場合は10億円前後には、なるはずでしょうからね。

**教育と研究は削るわけにはいきませんから、費用を少
しでも節約できる方法があれば、積極的に取り入れて行
きたい**と考えています。

<学生もクレジットカードを使えると聞きましたが？>

Q (石川) 学生もクレジットカードを持つことができる
そうですが、なぜ学生にまでクレジットカードを提供す
ることにしたのですか？

A (岡部) ICカードは、先に申し上げましたが、経済産
業省の実験で駒場で先行して導入し、学生証を発行して
きましたので、ノウハウの蓄積があります。配布スケジ
ュールなどで不明確な部分があるなどしましたが、それ
を反省し、今回の全学的導入を改善の機会にしたいと考
えています。その上でクレジットカードについては、学
内外での生活充実に一定の意義があると考えていますの
で、未成年者の場合は親御さんのご了解が前提条件にな
りますが、今回、実施することにしました。当然のこと
ですが、コーポレートカード機能はありませんので、学
生証と私的使用のクレジットカードとの2枚分離になり
ます。

<書類の処理も軽減されるのですか？>

Q (石川) お話を伺って、いろいろなところに考えを
めぐらせた上での導入であることが良くわかりました。私
は、コーポレートカードとしての機能に注目していますが、
今後、科研費の処理に使えてこそ意義があると思いま
す。最後に、その点をお聞かせください。

A (石堂) 既に本年度から、科研費は個人もちのクレジ
ットカードで処理できるようになっています。しかし、
これはさほど便利な方法とはいえません。一旦は個人の
口座から引き落とされますので、もう一度、大学として
経理処理が必要になり、実は2度手間なのです。これが、
コーポレートカードでは、カードで支払うとき既に大学
が支払う形になるので、きわめてダイレクトな話
になり、教職員の処理が迅速手軽にさらには正確になり
ます。

Q (石川) 非常によくわかりました。カード導入には、

書類作業が軽減される効果もあるとなれば、大歓迎です。
本日は、お忙しい中、お時間を割いてくださりまして、
どうもありがとうございました。

<導入スケジュール(11月30日現在)>

=教職員、短時間勤務有期雇用職員=

統合型カード、教職員証、クレジットカードの書類手
続は7月頃、配布は9月頃。

=学生=

学生証の配布は3~4月頃。

クレジットカード書類配布は3~4月頃。

なお、学内キャッシュレスは、平成17年10月頃サービ
ス開始予定です。

(お問い合わせ)

東京大学広報室 石川

TEL: 内線21045

MAIL: a-ishi@adm.u-tokyo.ac.jp

人事部

東京大学教職員永年勤続者の表彰について

平成16年度の東京大学教職員永年勤続者表彰式が、11月19日（金）9時45分から本部棟12階大会議室において、総長、渡辺理事、上杉理事、関係部局長及び関係事務（部）長等が列席して行われた。

被表彰者78名には表彰状の授与並びに記念品が贈呈され（代表 大学院農学生命科学研究科・農学部 飯野洋一さん）、総長の挨拶のあと被表彰者を代表して、医学部附属病院 鈴木久美子さんより謝辞が述べられた。



佐々木総長から表彰状及び記念品を受ける飯野洋一さん



佐々木総長に謝辞を述べる鈴木久美子さん

なお、本年度表彰された方々は次のとおりです。

財務部	金子 郁 夫
	小檜山 克 則
	瀧 田 忠 彦
施設部	安 達 雄 治
	有 村 義 幸
	五十嵐 敏 幸
	齊 藤 文 男

附属図書館

先端科学技術研究センター
保健センター

情報基盤センター
大学院法学政治学研究科・法学部
大学院医学系研究科・医学部
医学部附属病院

大学院工学系研究科・工学部

大学院人文社会系研究科・文学部

大学院理学系研究科・理学部

大学院農学生命科学研究科・農学部

齋 藤 道 孝
 迫 田 一 昭
 高 野 晃 宏
 寅ヶ口 敬 祥
 内 藤 哲 男
 早 濶 和 弘
 渡 邊 壽 夫
 風 間 勉
 肥 塚 一 郎
 友 光 健 二
 藤 田 英 子
 吉 田 左 貴 子
 渡 邊 慎 二
 大 栗 真 佐 美
 秦 圭 一 郎
 平 野 光 敏
 山 口 香 織
 瀧 口 昭 江
 天 羽 宏 治
 遠 藤 恭 子
 及 川 政 光
 川 島 た か 子
 佐々木 千 里
 鈴 木 久 美 子
 瀬 田 章
 竹 内 亨
 武 田 豊
 田 中 恵 美 子
 田 中 千 津 子
 友 水 幸 男
 松 島 さ ち こ
 江 崎 順 子
 田 中 公 子
 長 崎 千 裕
 原 口 正 行
 松 尾 美 鶴
 成 瀬 晃 司
 堀 内 秀 樹
 萩 野 久 憲
 佐 伯 喜 美 子
 関 藤 守
 田 中 春 美
 田 邊 俊 彦
 飯 野 洋 一
 石 垣 久 美 子
 並 木 葉 介
 水 野 直 樹
 米 田 久 和

大学院総合文化研究科・教養学部

海老沢 節 夫

翁 長 聡 江

酒 井 清 彦

高 嶋 秀 介

平 井 豊 子

大学院教育学研究科・教育学部

小 原 京 介

佐 藤 和 孝

大学院薬学系研究科・薬学部

佐渡山 安 武

宮 田 勝 利

医科学研究所

上 野 洋 子

昆 博 史

東洋文化研究所

上 田 公 一

社会科学研究所

大 澤 正 男

門 馬 清 仁

生産技術研究所

片 桐 俊 彦

川 口 安 名

徳 満 和 人

山 本 浩

国際・産学共同研究センター

斎 藤 敏 夫

分子細胞生物学研究所

朝 倉 智 子

石 野 博

物性研究所

村 山 千 壽 子

柏地区事務部

小 淵 和 宏

以上78名

また、各学部においては講演会・懇親会等が行われ、卒業生それぞれが学生時代に戻り大いに親睦を深めて、ホームカミングデイの1日を閉じた。参加者は約1,200名の盛況であった。



佐々木総長講演



コールアカデミー・アカデミカコール（コールアカデミーOB）、管弦楽団による演奏会

学生部

平成16年度「東京大学ホームカミングデイ」開催される

11月13日（土）に、東京大学ホームカミングデイが、本郷及び駒場キャンパスにおいて開催された。これまでは東京大学同窓会連合会の主催により2回実施してきたが、今年度から大学法人化元年を機に、本学が主催し実施することになったものである。

10時から、御殿下グラウンド、総合研究博物館、懐徳館等の自由見学並びに現役生によるキャンパスツアー等が行われた。13時からは大講堂において、本学卒業生でもあるNHKアナウンサーの黒田あゆみさんの司会により、総長講演、東京大学学友会・東京大学基金の設立及び「東京大学の歌」の募集についての報告、本学音楽部管弦楽団及びコールアカデミー・OB合唱団アカデミカコールによる音楽会が行われた後、本学卒業生の加藤登紀子さんによるコンサートが行われた。

音楽会では、佐々木総長をはじめ、役員、部局長も参加して会場内の卒業生と一丸となり、「ただ一つ」「東京大学運動会歌（大空と）」や「歌声ひびく野や山に」を全員で合唱するなど和やかに進められた。



現役生によるキャンパスツアー

学生部

「東京大学外国人留学生特別奨学制度（東京大学フェロシップ）平成16年度研究奨励費受給者証書授与式」を開催

「東京大学外国人留学生特別奨学制度平成16年度研究奨励費受給者証書授与式」が、11月11日（木）11時から、関係役員等の臨席の下に本部棟大会議室で開催された。

東京大学外国人留学生特別奨学制度は、「大学院における特に優秀な私費外国人留学生に対し研究奨励費を支給することにより、本学での学術研究への取組みを支援するとともに、諸外国からの優秀な留学生の受入促進に資すること」を目的として本年度設立されたものである。

本年度は、修士課程大学院学生6名、博士課程大学院学生26名の合計32名（支給期間：平成16年10月から東京大学大学院学則第2条に定める標準修業年限の最終月まで、月額15万円）が受給者として決定され、当日は佐々木総長から受給者一人一人に受給者証書が手渡された。

次いで、佐々木総長から「今後は皆さんを東京大学フェロと呼ぶことにするので、本学の全教職員の期待にこたえられるよう、研究や勉学に大いに励んでいただきたい」旨の挨拶があり、その後、受給者を代表して大学院工学系研究科の金螢来さんから感謝のスピーチがあった。

<問い合わせ先>

学生部厚生課奨学第二係・内線22543



研究奨励費受給者と関係者



受給者証書授与

学生部

谷川温泉郷の最後の健康診療実施される

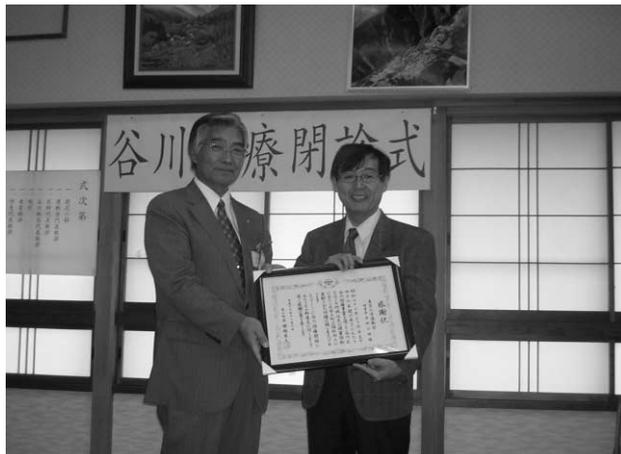
恒例の谷川診療が11月6日（土）、群馬県利根郡水上町の谷川会館において実施された。

本診療は、本学の保健体育寮（谷川）の運営等で日頃お世話になっている地元谷川温泉地区の方々への謝意から、本学運動部出身の医師等が中心となって昭和34年から毎年1回（この間2回休止）実施されているものである。

今回で44回目となり、例年この診療を心待ちにしている方がおられるほど地元で根づいた事業となっているが、本診療は諸般の事情から本年度限りで閉診することとしたため、今年は多数の方々を受診された。

午後からは谷川会館にて診療終了を記念し、「谷川診療閉診式」が開催された。

式は東京大学運動会常務理事・鈴木俊夫教授（工学系研究科）の挨拶に始まり、腰越孝夫水上町長の謝辞、診療開始当時から診療にあたっている瀬田克孝医師（社会保険中央総合病院名誉院長）の挨拶や地元・谷川地区からの感謝の言葉があった。このなかで、診療開始当時から受診している田村又吉氏の謝辞では谷川診療がいかに意義深いものであったか垣間見ることができた。



閉診式にて腰越孝夫水上町長（左）より感謝状を贈られる鈴木俊夫運動会常務理事（右）

谷川寮は昭和6年開寮以来、本学学生及び教職員等の課外活動・保養施設として、温泉郷に近い点もあり現在に至るまで多数の利用に供している。谷川診療は、学生時代に谷川寮の運営に携わってこられた瀬田医師が、昭和30年代当時無医村状態であった谷川地区の現状を慮り、同医師の発案を受け東京大学運動会が同地区への地域貢献の一環として年に一度診療所を開設したのが始まりである。以来、本年度に至るまでほぼ毎年開設され、その歴史は谷川寮ひいては谷川地区の歴史と共にあった

といっても過言ではない。

谷川診療は、大学と地域との連携の好例であるといえる。今後の谷川地区との交流事業については新たに方策が望まれるが、本学が関連する他地域においてもこのような地域連携の動きがより活性化していくことを切に願うものである。

本事業に関し、水上町長より東京大学運動会に感謝状が授与され、本学と水上町の発展を願いつつ、式を散会した。

学生部

平成17年度入試に伴う臨時措置（本郷関係）について

I 平成17年度大学入試センター試験及び第2次学力試験（前期日程）の実施に伴う入構制限等の臨時措置（本郷関係）について

平成17年度の大学入試センター試験（平成17年1月15日（土）・16日（日））及び第2次学力試験 前期日程（平成17年2月25日（金）・26日（土）・27日（日））の実施のため、次のとおり入構制限等の臨時措置をとることとする。ただし、2月27日（日）は、法文1・2号館及び山上会館の建物について、入館制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

(1) 大学入試センター試験

平成17年1月14日（金）

試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

(2) 第2次学力試験（前期日程）

平成17年2月24日（木）

試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成17年2月25日（金）

試験当日のため、授業は休止する。

2. 試験場区域

試験場区域を次のとおり設定する。

(1) 本郷区域（本郷地区から本部棟・附属病院・第二食堂建物・環境安全研究センターを除く区域）

(2) 農学部区域（弥生地区から地震研究所・農学部グラウンド・野球場を除く区域）

(3) ただし、大学入試センター試験にあつては、「(1) 本郷区域」のみとし、(1) 及び (2) の区域に通じる陸橋は封鎖する。

3. 入構制限等

(1) 入構許可

試験当日は、「受験者」、「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」は入構できる（病院地区への通り抜け不可）が、その他の者の試験場区域への入構は禁止する。

なお、入・出構の際は、警備担当者の指示に従うこと。

また、試験場区域においては、試験の妨げにならないよう静粛にすること。

(2) 「身分証明書」の提示

入構に際しては、次のとおり「身分証明書等」を提示するものとする。

① 「本学教職員」……「身分証明書」

※ 「入試実施本部関係教職員」は、「入試統一腕章」を着用する。

② 「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」……「学生証・研究生証」

③ 「特に入構を許可された者」……「入試特別入構証」

※ 「入試特別入構証」は、大学入試センター試験用及び第2次学力試験（前期日程）用の2種類とする。

4. 試験場区域への入・出構は、次によるものとする。

(1) 本郷区域

① 「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」……正門、赤門、弥生門及び薬学部角・理学部化学館角・第二食堂前ゲート

② 「受験者」……正門、弥生門及び薬学部角・理学部化学館角・第二食堂前ゲート

ただし、大学入試センター試験にあつては、第二食堂前ゲートは使用できない。

なお、赤門からの入構は、正門の混雑時及び雨天・降雪時に限り中央実施本部の判断により使用する。

(2) 農学部区域

① 「本学教職員」、「研究のために特に入構を必要とする本学学生・研究生」及び「特に入構を許可された者」……農正門及び南門

② 「受験者」……農正門

(3) 上記の各門及び臨時ゲート以外からの立ち入りを禁止する。

なお、龍岡門及び池之端門は平常通りとする。

備考

1. 報道関係者等

「報道関係者等」は、腕章による識別ではなく、広報委員長の発行する「入試特別入構証」により入構を認める。

なお、報道関係者等への対応は広報委員会を通じて行う。

2. その他

(1) 試験場区域への車両による入・出構は、原則として認めないが、やむを得ない事由のある者の入・出構は、薬学部角ゲート・第二食堂前ゲート及び弥生門・農正門とする。

但し、オートバイについては、エンジンを切った場合のみ入・出構を認める。

(2) 附属病院の業務は平常通りとなっており、附属病院の業務に関連して、試験場区域に入構する必要がある場合（通り抜けは不可）には、「教職員」については「身分証明書」、「学生・研究生」については「学生証・研究生証」、「その他の者」については「入試特別入構証」を必ず提示すること。

Ⅱ 平成17年度第2次学力試験（後期日程）の実施に伴う入館制限等の臨時措置（本郷構内）について

第2次学力試験 後期日程（平成17年3月13日（日）・14日（月））の実施のため、次のとおり入館制限等の臨時措置をとることとする。

1. 授業の休止

第2次学力試験（後期日程）

平成17年3月11日（金）

試験場準備のため、試験に使用する教室について、原則として午後の授業は休止する。

平成17年3月14日（月）

試験当日のため、授業は休止する。

2. 試験場

法文1・2号館、経済学部（経済学研究科棟）、工学部5・8・14号館及び山上会館

3. 入館制限等

試験当日は、試験場を設定した当該建物への「受験者」及び「入試関係教職員」以外の立ち入りは原則として禁止する。

4. 試験場への入館

「受験者」及び「入試関係教職員」の出入口につ

いては、各建物の指定された場所とする。

備考

1. 報道関係者

報道関係者の入館及び構内での取材については、広報委員会を通じて行う。

Ⅲ 平成17年度第2次学力試験合格発表（前期日程）の実施に伴う車両通行規制の臨時措置（本郷関係）について

平成17年度の第2次学力試験 前期日程合格発表（平成17年3月10日（木））の際、受験者等の安全確保のため、次のとおり通行規制の臨時措置をとることとする。

1. 規制区域

医学部本館前ロータリー～赤門～正門

2. 規制時間

11:00～16:00

3. 規制車両

自動車及びオートバイ（合格発表関係車両を除く）

4. 注意事項

上記2の規制時間帯以外でも、車両での通行の際は、受験者等の安全確保を第一に考え、通行すること。

学生部

硬式野球部の松家卓弘投手がプロ野球横浜ベイスターズからドラフト指名

11月17日（水）、プロ野球のドラフト会議が行われ、横浜ベイスターズから松家卓弘投手（経済学部4年）が9巡目で指名を受け、安田講堂の会議室で記者会見が行われた。本学からの球界入りは平成11年に日本ハムファイターズに入団した遠藤良平投手以来、5人目となる。

松家投手は香川県立高松高校出身。高校時代は県大会準優勝にまでチームを導いた実績を持つ。野球部に入部した当初から本格派速球右腕として周囲の注目を浴び、1年秋の六大学新人戦では法大から勝ち星をあげた。しかし、その後は怪我に悩まされ思うように成績を残せなかった。最高学年になって臨んだ今年度、春は法大と立大から1勝ずつ、秋は明大から完封で1勝を挙げ、改めてその実力を野球界に知らしめた。



記者の質問に応じる松家投手（中央。左は河野通方便式野球部長、右は三角裕前硬式野球部監督）

横浜からの指名を受け、松家投手は「プロで野球をするチャンスを与えてくれた横浜に感謝したい」と笑顔で語った。「プロで対戦してみたいバッターはカブレラ。どんな風にホームランを打たれるのか体感してみたい」と、ユーモアのある返答もして見せた。大学時代を振り返り、「怪我をしてたくさんお世話になった方々には、自分が活躍することで恩返しをしたいと思った」と、決して平坦ではない野球人生の苦労をにじませた。東大からプロ入りすることに関して、「東大生であることは誇りに思っているが、野球をやる上では関係ない。東大の、ではなく、横浜の松家と言われるようにがんばりたい」という。会見に同席した三角前野球部監督は松家投手について「大学では不完全燃焼に終わったが、持っている素質は東大野球部史上でもNo.1。さらに進歩しうる伸びしろも持っている」と、その実力を評価している。安田講堂前で掲げた目標は「開幕一軍」。「まずは1勝を挙げる。その先は同じことの積み重ね、一步一步着実に階段を上がっていきたい」と意気込みを語った。松家投手のプロでの活躍を大いに期待したい。

大学院理学系研究科・理学部

平成18年度大学院理学系研究科化学専攻修士課程入学試験（平成17年8月実施）について

大学院理学系研究科化学専攻修士課程入学者選抜方法が大幅に変わります。選抜試験は専門試験のみとなり、以下のように14題の中から5題を選択します。化学を専門とする学生だけでなく、物理系・生物系からの受験を大いに歓迎します。

専門試験 化学6題・数学2題・物理学2題・地球科学2題・生物学2題
計14題のうち5題選択

また、英語の選抜試験を廃止し、替わって出願時にTOEFLのスコアの提出を求めます。

詳細は、http://www.chem.s.u-tokyo.ac.jp/graduate/index_new.htmlをご覧ください。

大学院農学生命科学研究科・農学部

農学生命科学研究科・農学部で外国人留学生見学旅行を実施

農学生命科学研究科・農学部では、11月1日（月）・2日（火）の両日、恒例の1泊2日の外国人留学生見学旅行を実施した。今回の留学生の参加者は、好評だった昨年を大幅に上回る59名にのぼり、引率の教職員12名と併せて71名、大型バス2台での旅行となった。

初日は予報で天候不良が心配されたものの、小田原近くの当研究科附属農場二宮果樹園へ着いたときには晴天となり、果樹園での富有柿の柿もぎ及び柿の渋抜き実習を行った。助手、技術職員の人たちが事前に用意してくれた平種という種なしの渋柿をドラム缶の内部に層状に並べエタノールを吹きかけ、ビニールをかけ密閉する。柿を珍しがる留学生も多く、皆この作業を大いに楽しんだ。二宮果樹園では、柿のほかにも、葡萄、キウイ、桃、栗、ミカンなどの栽培も行っており、栽培にまつわる苦労話も興味深かった。その後、箱根大湧谷を経て、芦の湖畔の宿に到着。その夜は、食事を兼ねて懇親会を行い、自己紹介や歌で盛り上がり、この旅行のもう一つの目的でもある親睦を大いに深めた。



当研究科附属農場二宮果樹園にて

翌日は抜けるような快晴となり、眼前にそびえる富士山は、息を呑むばかりの美しさだった。5合目までの富士スバルラインの両側にちょうど見頃の黄葉になった唐松や常緑のままの種々の樹木を、同行した本研究科森圏管理学の教員による植生についての解説付きで楽しんだ。5合目で集合写真を撮り、眼下にひろがる本栖湖や河口湖の眺めを堪能したあと、スバルラインを戻り、出口側の環境省の生物多様性センターで昼食となった。ここで展示等を見学し、富士山近辺の自然環境について再確認した後、本学の山中寮へ向かった。山中寮は、当研究科附属演習林のひとつである富士演習林の中に位置しており、周囲はすでに美しく紅葉していた。演習林の中にはいくつかの区画にわかれており、耐寒実験中の樹木の区画を森圏管理学の教員の解説を聞きながら見学した。ここより帰途につき、渋滞による多少の遅れはあったものの、無事に弥生キャンパスに到着し、数々の思い出を残して見学旅行は終了した。



芦の湖畔の宿にて

大学院総合文化研究科・教養学部

総合文化研究科・教養学部で留学生見学旅行を実施

大学院総合文化研究科・教養学部では留学生の見学旅行を実施した。

留学生59名と引率者5名は、11月13日（土）朝、教養学部正門をバス2台で出発、紅や黄に彩られた自然の中を長野県に向かった。松本城とその周辺を見学し、諏訪湖畔に立ち寄り、夜は高遠にある「少年自然の家」に宿泊した。14日（日）朝は、初体験のラジオ体操を同宿の小学生らと楽しんだ後、悠然と広がる日本アルプスを左右に望みながら木曾路へ向かい、妻籠、馬籠、奈良井と往時の宿場町をたどった。晩秋の光の中、過去の面影が残る町並み、建造物や遺跡に学び、旧街道の雰囲気を感じとった。学部1年生から博士課程の学生まで、国籍もさまざまな学生たちが、美しく色づいた木々や清流に憩いながら、交流できたのも幸いだった。盛りだくさんの旅程で、帰着は14日（日）夜遅くになったが、全員元気に駒場に戻ってきた。



松本城での集合写真

大学院教育学研究科・教育学部

平成16年度教育実習・介護等体験懇談会開かれる

平成16年度の教育実習及び介護等体験が11月中旬でほぼ終了したことにもない、11月17日（水）17時30分から山上会館において、教育実習校及び介護等体験関係の先生方をお招きして懇談会が開かれた。

大学側からは、佐々木総長をはじめ各学部長、教職課程委員会委員、教育学部附属中等教育学校教諭及び教育実習生、介護等体験生など約70名が参加して、教育実習校及び介護等体験校等の方々に対してご慰労申し上げる

とともに、感謝の意を表した。



介護体験の報告を行う体験学生



中学時代の恩師（指導教諭）と話をする実習学生と教授

懇談会は、佐々木総長の挨拶に始まり、佐藤教育学研究科・教育学部長の挨拶、三橋教育学部附属中等教育学校副校長による教育実習経過報告の後、稲上人文社会科学研究科・文学部長の発声により乾杯が行われた。

しばらく歓談の後、法学部及び教育学部の教育実習生2名から教育実習を終えての感想等の報告が行われ、教育実習校を代表して渡邊玖美子教諭（武蔵野市立第六中学校国語科担当）から教育実習についてのご感想、ご意見及びご助言を頂いた。

また、大学院農学生命科学研究科及び教養学部の介護等体験者2名から、体験談等の報告が行われ、続いて須永東京都社会福祉協議会研修室長から、介護等体験についてのご感想、ご意見及びご助言を頂いた。

会は、終始なごやかな雰囲気で行われ、海老塚薬学系研究科・薬学部長の閉会の挨拶をもって19時30分頃散会した。

大学院薬学系研究科・薬学部

東京大学21世紀COEプログラム「戦略的基礎創薬科学」第2回国際シンポジウム「生命科学の新展開と創薬」開催される

11月10日（水）、11日（木）の両日、薬学系総合研究棟講堂において標記シンポジウムが薬学系研究科主催で開催され、大学関係、企業等の学内外から延べ約260人の参加者があった。

最初に海老塚薬学系研究科長から、「生命科学の先端研究を通して創薬への大きな流れを大学において創り出す」旨の活動目的が述べられた。引き続き、
Session 1「有機化学の新展開と創薬への展望」
Session 2「構造生物学の新展開と創薬への展望」
Session 3「シグナル伝達研究の新展開と創薬への展望」
Session 4「脳・神経科学研究の新展開と創薬への展望」の講演が行われ、いずれのセッションにおいても満場の聴衆を集め活発な議論が交わされた。



挨拶をする海老塚研究科長

大学院薬学系研究科・薬学部

薬学部特別講演会 “Distinguished lecture by Prof. Louis J. Ignarro” が開催される

10月15日（金）、薬学系総合研究棟講堂において、薬学系研究科の主催、21世紀COEプログラム「戦略的基礎創薬科学」の後援により、ノーベル賞受賞者であるLouis J. Ignarro教授をお招きしての特別講演会を行った。

Ignarro教授は、現在University of California, Los Angelesに所属する教授であり、一酸化窒素（NO）のような気体成分が心血管系の調節に関わる情報伝達を担う分子として働くことを初めて発見したことで、平成10年にノーベル医学生理学賞を受賞されている。Ignarro教授が薬学出身であることもあり、今回、永井記念薬学国際交流財団の援助を得て来日講演が実現した。

当日は、学内外から聴衆が詰めかけ、講堂が満席にな

るほどの盛況ぶりの中で行われ、NOの発見の経緯から将来の研究展望までを、基礎的な話や実際のデータを交えて非常に明快にお話になり、また、研究に対する情熱あふれる姿勢を感じることができ、初めてこの領域に触れる人から専門家まで全ての人にとって感銘深い講演であった。



Ignarro教授と杉山雄一教授（COE拠点リーダー）との講演後の議論

医科学研究所

医科学研究所で動物慰霊祭行われる

11月11日（木）11時から、医科学研究所敷地内の動物慰霊碑前で、動物慰霊祭が執り行われた。

医科学研究所では、数多くの動物が研究・実験に供され、医科学研究所の発展に大きく寄与している。

当日は、山本雅所長の挨拶、甲斐知恵子実験動物研究施設長の報告があり、引き続き参列者が動物の霊に思いをいたし、献花を行った。

動物を利用した研究に従事する研究者を中心に250名を超える教職員等が参列し、滞りなく終了した。



動物慰霊碑前で挨拶を述べる山本所長

東洋文化研究所

日本最初期の刊本である正平本『論語』の寄贈を受ける

東洋文化研究所は、本年夏、安田弘氏よりその祖父安田善二郎氏が収集された「安田文庫」旧蔵の貴重な古籍11点の寄贈を受けました。安田講堂の寄贈者でもある安田家ゆかりの品が、このたびまた本学、なかでも数多くの漢籍を蔵し、その整理と保存に力を注いできた東洋文化研究所に収蔵されたことは、とりわけ意義深いことです。

今回寄贈を受けた古籍は、

- (a) 正平本『論語』3点（14世紀南北朝時代）
- (b) 同系統復刻本『論語』6点（15-16世紀室町時代～江戸時代）
- (c) 南宋刊本『佛果円悟真覚禅師心要』1点
- (d) 南宋刊本『儀礼経傳通解』第十七卷残本（昌平坂学問所旧蔵）

の11点。なかでも圧巻は、(a)(b)類の正平本『論語』合計9点です。正平本『論語』は、日本で最初期の木版印刷の書籍であるとともに、唐代における『論語』の姿を伝えるテキストとして、今日でもきわめて珍重されているテキストです。このたび寄贈を受けた「単跋早印本」は、直江兼統の旧蔵にかかるものであり、保存状態の良さもあって、正平本『論語』のうちでもとびきりの善本に属するものです。

東洋文化研究所では、今後これらの書物を特別貴重書に定めて大切に保存する一方、研究者の利用に供するためのデジタル画像化などの処置をしたいと考えております。また、安田弘氏に深く感謝の意を表すとともに、広く内外の研究者への公開をはかるため、記念展示会等の行事も計画中です。

なお、今回寄贈を受けたそれぞれの書物についての紹介は、最新の当研究所アジア情報研究センター刊『明日の東洋学』第12号（10月30日（土）発行）に、橋本秀美氏の文章がありますのでご参照いただければ幸いです（<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pdf/nl012.pdf>）。

生産技術研究所

生産技術研究所第13回技術発表会開催される

生産技術研究所の技術職員が中心となり例年開催している技術発表会が、10月28日（木）10時から第一会議室において開催された。

今年も、特別講演1件、招待講演2件、誌上発表1件を含め11件の発表があった。発表者は入所1年目の新人から駒場キャンパス内の他部局の技術職員による招待講演、この道30年の経験に培われた加工技術を持つ中小企業の技術者の特別講演もあり、質疑・討論が活発に行われ、講演時間が足りなくなるほど熱の入った発表も多数あった。参加者は、所外13名、所内90名余の100名余であった。

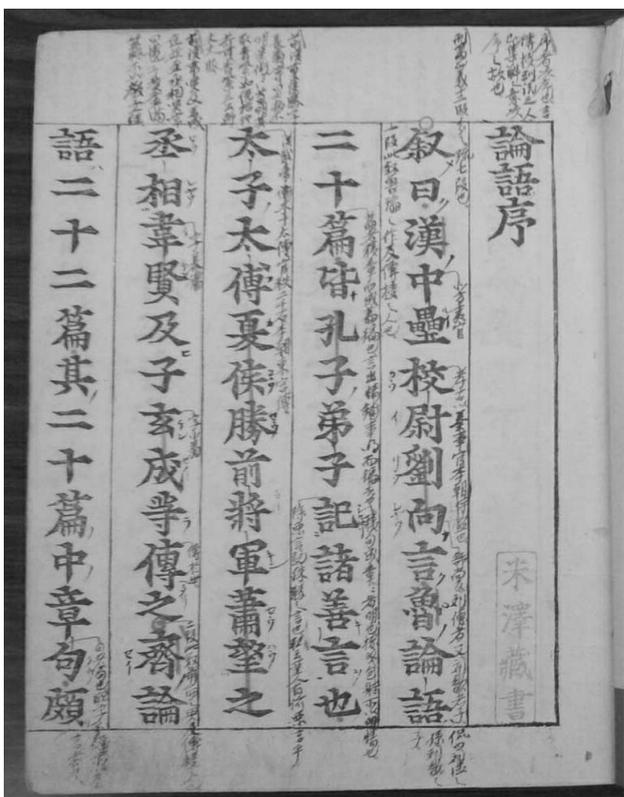
発表内容は、放電加工における外部との協力体制、放射光を用いた57Fe薄膜試料からの内部転換電子放射と核共鳴前方X線散乱、20万円で作る原子間力顕微鏡、低温レバーロックカプラと試作工場、半導体素子における揺らぎとその検出、先端研におけるネットワークの運用、酸化物系スラグ中各成分の定量分析、画像解析による地盤材料の局所変形挙動の分析、ダム湖における測量、ステンレス大口径フランジの精密加工、メールは届いていますか、などに加え、技術職員の交流や、ネットワークづくりの必要性をはじめ、継続した技術が研究にどれだけ生かされているか、技術職員の研究・教育支援業務への参加のあり方など多岐にわたり詳しい内容から展望まで幅広く紹介された。

所長賞は、情報・エレクトロニクス系部門は柴田憲治さんの「半導体素子における揺らぎとその検出」、人間・社会系部門は堤千花さんの「画像解析による地盤材料の局所変形挙動の分析」が受賞した。

終了後の懇親会においても、活発な議論が交わされ、技術職員等の交流の場として極めて有意義であった。



正平本『論語』1：「単跋早印本」（14世紀南北朝時代刊）



正平本『論語』2：同書の序文部分、「米沢藏書」印があり、直江兼続旧蔵のものと知られる。



発表会風景

分子細胞生物学研究所 分子細胞生物学研究所動物慰霊祭行われる

第7回東京大学分子細胞生物学研究所動物慰霊祭は10月27日（水）11時より、農学部附属家畜病院奥の動物慰霊碑前において執り行われました。秋晴れの空の下で98名の参加者があり、宮島所長の挨拶、内藤動物実験委員長からの一年間の動物実験概要の報告、引き続いて教職員・学生等参加者による焼香がしめやかにおこなわれました。

分子細胞生物学研究所では研究所本館地下にあるSPFマウス実験施設及びウサギ飼育室と本館玄関前にある2階建ての新動物舎、そして今年度から生命科学総合研究棟の地下で稼働し始めた実験動物施設を利用して、多くの教職員・学生等が遺伝子改変マウスの作製及びその解析、抗がん剤の評価、神経系や造血系の初代培養細胞の分離、タンパク質の精製、抗体の作製などの目的で実験動物を使用しています。その数は過去一年間にマウス約9000匹、ラット9匹、ウサギ22羽にも上り、これらの動物実験で得られた新しい知見は、既に学会や学術論文に発表され、それぞれの専門分野において高く評価されています。

ここに本研究所の研究活動のために尊い命を捧げてくれた動物たちの御霊に感謝と追悼の意を表します。

本研究所における動物実験は、「動物の愛護及び管理に関する法律」（昭和48年）、「実験動物の飼養及び保管等に関する基準」（昭和55年）を遵守し、東京大学動物実験実施マニュアル並びに本研究所の動物実験規則に基づいて、必要最小限の動物により最大限の研究結果が挙げられるよう、関係する皆様方のお一層の努力をお願いいたします。



所長・動物実験委員会委員長

分子細胞生物学研究所 第20回バイオテクノロジー懇談会を開催

分子細胞生物学研究所では、企業との情報交換・交流をはかるため、（財）応用微生物学研究奨励会の後援により「バイオテクノロジー懇談会」を行っている。本年度は11月12日（金）、弥生講堂にて、以下の講演が行われた。

1. 染色体分配の鍵となるタンパク質シュゴシン
(渡辺嘉典・染色体動態研究分野)
2. 味覚伝達機構の分子生物学的研究と応用
(進藤洋一郎・アサヒビール株式会社未来技術研究所)
3. タンパク質相互作用ネットワーク解析—ヒト完全長cDNAからの展開
(夏目徹・産業技術総合研究所、分子細胞生物学研究所客員教授)

それぞれの分野の最先端の研究結果が発表され有意義な講演会となった。終了後に懇親会を開き親睦を深めた。



バイオテクノロジー講演

物性研究所

物性研究所一般講演会開催される

物性研究所では11月20日（土）17時から、柏市市政施行50周年記念事業の一環として、柏市・柏市教育委員会と共催でアミューゼ柏において、D.Osheroffスタンフォード大学教授（平成8年ノーベル物理学賞受賞）、小林俊一名誉教授（前理化学研究所理事長）の両氏による講演会を開催した。

講演Ⅰでは、D.Osheroff氏によるスペースシャトル・チャレンジャーの事故調査委員としての経験を踏まえた巨大科学における問題点を考察する講演が行われ、講演Ⅱでは小林俊一氏による具体的な事例を交えた身近な事象から電子を理解する講演が行われた後、聴講者との活発な質疑応答などが行われた。

当日は、市内各所において多数のイベントが催されるなか、約200名が聴講する講演会となった。



小林俊一名誉教授講演の様子

物性研究所

第9回物性研究所国際シンポジウム開催される

11月16日（火）から19日（金）にわたり、物性研究所の大講義室において第9回物性研究所国際シンポジウム（ISSP-9）が東大シンポジウム2004として開催された。

本シンポジウムは柏移転後2回目にあたり、今回のテーマは、「量子凝縮系研究の新展開」であった。量子流体・固体や電子系における超流動や超伝導など物性概念を共有する量子凝縮系全体にわたる統一的な議論が主目的であった。会議には、超流動ヘリウム3の発見で平成8年度のノーベル物理学賞を受賞したD.Osheroff教授（スタンフォード大）、ロンドン賞やサイモン賞の受賞者4名を始めとして、海外からの第一線の研究者28名を含め約150名の参加者があった。会議はD.Osheroff教授の基調講演に始まり、約40の比較的長い講演を中心として活発な議論が行われた。また約80のポスターが、全期間中掲示され、ポスターセッション以外の時間でもゆったりと議論や情報交換が行われた。3日目の夕方に市内のホテルにおいて行われたバンケットには、柏市長も出席され、地元との国際交流の場となった。



基調講演



会場風景

総合研究博物館

総合研究博物館で平成16年度「学芸員専修コース」を開講

11月17日（水）から19日（金）の3日間、総合研究博物館では平成16年度「学芸員専修コース」を開講し、全国各地で学芸員業務に従事する17名に修了証書を授与した。

「学芸員専修コース」は、国内の博物館、美術館、資料館、埋蔵文化財センターといった施設において学芸員としての業務に従事する専門職員を対象とした講座で、講義とワークショップを通じた受講生の企画力・技術力の向上を目指す。平成5年度の第1回学芸員専修コース開催以降、本年度で12回を数える。

本年度のテーマは「思考型ワークショップ-21世紀ミュージアムを描く」。総合研究博物館の教授、助教授をはじめ、VR（バーチャル・リアリティ）の分野で最先端の研究成果をあげている研究者、情報空間デザイン・都市設計などで幅広く活躍する建築家らが講師となり、無限の可能性を秘めるこのテーマに基づき、それぞれの思い描く21世紀ミュージアムを披露した。「21世紀ミュージアムはどうあるべきか」という難題に対し受講生らは、複数のグループを形成してそれぞれの専門性を生かしたアイデアを捻出しディスカッションを重ね、21世紀のミュージアム像のイメージを造り上げていった。講座を終えて修了証書を受け取った受講生は、「壮大なテーマであり、今回の講座での3日間だけでなく、今後とも時間をかけて自分なりのビジョンを模索したい」と受講の感想を語った。

次年度の開催時期は未定。お問い合わせは総合研究博物館（web-master@um.u-tokyo.ac.jp）まで。



「21世紀ミュージアム総論」の講義を行う西野嘉章総合研究博物館教授

掲 示 版

安全衛生管理室

冷凍庫、薬品棚内等の一斉点検について

お知らせ

本学において管理区域外での放射性同位元素の発見等、各研究室等の安全管理の不十分さに起因する多くの事故が起きています。

つきましては、所属部局での本年の年末一斉清掃期間に合わせ、下記のとおり不用物品等の点検及び廃棄処理をお願いします。

記

1. 冷凍庫、冷蔵庫及び薬品棚内の不用試薬等の点検及び廃棄。
 なお、不用試薬の廃棄については、環境安全研究センターに処理依頼・協議の上計画的に処分する。
2. 上記点検及び廃棄に伴い不用となった古い冷凍庫、冷蔵庫の可能な限りの整理及び適切な廃棄。
3. 現在使用していない高圧ガスボンベの撤去。

（この一斉点検については、施設・キャンパス・安全）
 担当理事から各部局長あて依頼しています。

総務部

柏国際キャンパス構想シンポジウムのお知らせ

シンポジウム・講演会

新キャンパス等構想推進室WGでは、柏キャンパスが、世界に広がる学の融合を目指し、世界的研究拠点たる国際キャンパスとしてその質実を高めることが三極構造構想の一端を担うために必要であるとの認識に立ち、平成15年度より、国際連携のための柏キャンパスの在り方について調査研究を行って参りました。

本シンポジウムでは、柏キャンパスが、社会との緊密な連携を維持しながら、国際的な学術拠点ならびに産業創生拠点として展開することを目標とする「柏国際キャンパス構想」調査の概要報告を行うとともに、千葉県より堂本知事、柏市より本多市長をお招きし、千葉県・柏市との今後の連携の有り様を探ります。

また、現在柏キャンパス関連部局で行われている研究やアカデミックプランを紹介し、他キャンパスとの連携を一層推進することを目的としています。教職員に限らず、学生の皆様の参加も歓迎いたします。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

日 時：12月20日（月）15:00～18:20（14:45開場）

会 場：弥生講堂

参加費：無料（懇親会を含む）

シンポジウム参加希望の方は、懇親会参加の有無も含め、syoraikousou@ml.adm.u-tokyo.ac.jpまでお申し込みください。

第1部 柏国際キャンパス構想調査の概要報告

15:00～15:30

国際産学連携モデル都市構想

（三井不動産S&E総合研究所 多田宏行所長）

15:30～15:55

意見交換

（堂本暁子千葉県知事、本多晃柏市長、小宮山宏理事・副学長）

第2部 柏国際キャンパスのアカデミックプラン

16:00～16:20

国際強磁場科学研究拠点コラボラトリ構想

（物性研究所 嶽山正二郎教授）

16:20～16:40

高輝度光源研究センター計画について

（物性研究所 柿崎明人教授）

16:40～17:00

次世代物質科学連携研究センター構想

（新領域物質系 高木英典教授）

17:00～17:20

柏から世界へ発信するポストゲノム研究

（新領域メディカルゲノム 上田卓也教授）

17:20～17:40

自然科学統合化の一環としてのe-Biology：生命科学の知の統合化プロジェクト

（新領域情報生命科学 高木利久教授）

17:40～18:00

千葉大学環境健康フィールド科学センターの理念と目標
（千葉大学 古在豊樹教授）

18:00～18:10 質疑応答

18:10～18:20 閉会挨拶（林良博理事・副学長）

18:30～20:00 懇親会

問い合わせ先：

総務部企画課将来構想係 TEL：03-5841-2042

学生部

年末年始の体育施設の受付業務

お知らせ

体育関係窓口受付業務は12月28日（火）から1月4日（火）まで休止します。

これに伴い、体育施設の使用及び受付は下表のとおり行います。

体育施設名	使用休止期間	予 約 受 付	
		対象期間	受付開始日
二食横テニスコート *1	12月24日(金) ～1月4日(火)	1月11日(火) ～1月14日(金)	1月5日(水)～
農学部グラウンド		2 月 分	1月6日(木)～
検見川総合運動場	12月28日(火) ～1月4日(火)		学内者 12月17日(金)～ 学外者 1月5日(水)～
保健体育寮	12月28日(火) ～1月6日(木)		1月5日(水)～
二食地下プール	12月25日(土) ～1月4日(火)		
御殿下記念館 *2	12月28日(火) ～1月3日(月)		
御殿下グラウンド *3			運動部・Aクラブ優先予約 12月1日(水)～ Bクラブ第1順予約 1月1日(土)～ フリー予約 1月6日(木)～

*1 1月5日（水）～1月7日（金）分の受付日は12月22日（水）となります。

*2 12月27日（月）は館内清掃を行うため、15時に閉館となります。

*3 年末年始の鍵の貸し借りは警備室で行います。なお、同期間は専有予約以外の方の利用はできません。

問い合わせ先：学生部学生課課外体育係（内線22509～22511）

学生部

新しい「東京大学の歌」の歌詞の募集について

募集

「東京大学の歌」として①運動会歌「大空と」、②応援歌「ただ一つ」が制定されると共に、新しい「東京大学の歌」の歌詞を募集することになりました。

つきましては以下の概要・HPを参照に多数ご応募くださいますよう、お願い申し上げます。

<募集概要>

形式等：形式は自由。未発表の作品に限る。歌詞は原則として3番まで。

入選作品の著作権は東京大学に帰属する。

歌詞は、作曲の都合上一部変更する場合もある。

応募資格：基本的には本学学生・教職員とするが、制限は設けない。

選考方法：「東京大学の歌」選考委員会

(委員長岡本和夫教授、小椋佳さん、加藤登紀子さん、他教職員・学生より構成)

応募締切：12月31日(金)

結果発表：1月14日(金)

入選歌詞発表と同時に作曲募集を行う。

入選作品は学内掲示板・ホームページ等に発表。

賞 金：入選作品(1点)に10万円

詳細につきましては、以下のHPをご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/b01_05_14_j.html

(本件に関するお問い合わせ先)

学生部学生課課外文化係(担当：大八木・宮内)

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

TEL：03-5841-2529 FAX：03-5841-2519

e-mail：kagaibunka@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



あなたのセンスが東京大学に新しい歴史を刻みます。奮ってご応募ください。

AGS推進室

AGS年次総会及びWSC-SD年次総会への参加募集案内

募集

東京大学は、マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学、及びスウェーデンのチャルマーズ工科大学と共に、環境保全を図りつつ地球規模での持続的発展を求める国際学術協力を進める研究団体であるAGS(Alliance for Global Sustainability)での活動を推進しております。

AGSでは毎年年次総会を実施しておりますが、平成17年のAGSの年次総会は、3月20日(日)から23日(水)にかけて、マサチューセッツ工科大学で開催されます。

一方、AGSと連携する大学院生を中心とした学生団体、World Student Community for Sustainable Development(WSC-SD)において、本学のUTSC(University of Tokyo Student Community)は中心的な役割を担い、現在も活発な活動を展開しております。WSC-SDも毎年年次総会を開催しており、AGSの年次総会に先立ち3月16日(水)～19日(土)に開催されます。現在、UTSCでは大学院生、学部生を中心としたメンバーとともに、広報と参加準備を進めています。

AGSの活動に関心をお持ちで、AGS年次総会、WSC-SD年次総会に参加を希望する本学学生に、旅費・滞在費を東京大学AGS推進室が助成することになりました。AGSおよびWSC-SD年次総会の詳細は、下記に示します各ホームページにて順次公開されます。参加希望者は、下記のホームページを参照の上、掲載されている内容に従ってお申し込みください。

UTSCホームページ：

<http://ags.esc.u-tokyo.ac.jp/utsc/> (UTSCホーム)

年次総会関連情報：

<http://web.mit.edu/agsam2005/call/> (AGS)

http://wscsd.org/rubrique.php?id_rubrique=10 (WSC-SD)

質問・問い合わせ先：

塩尻 (UTSC代表)

MAIL：students-core@ags.esc.u-tokyo.ac.jp

T E L：内線27335

浅尾 (AGSコーディネーター)

MAIL：asao@esc.u-tokyo.ac.jp

T E L：内線27937

大学院工学系研究科・工学部

第2回テレコミュニケーション、レイマージョン、レイグジスタンスに関する国際シンポジウム開催のお知らせ

シンポジウム・講演会

本シンポジウムは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の戦略的創造研究推進事業（CREST）の研究プロジェクトである「レイグジスタンスを用いる相互コミュニケーションシステム」〔研究代表者：舘暲（情報理工学系研究科教授）、研究分担者：原島博（情報学環教授）、廣瀬通孝（先端科学技術研究センター教授）〕の研究成果を広く公開し、この分野の世界の動向を海外と国内の第一線の研究者や知のアーキテクトを招いて紹介するものです。

平成14年の第1回シンポジウムに引き続き、今回が2回目になります。なお、この研究テーマが含まれる研究領域は、高度メディア社会の生活情報技術（研究総括：長尾真（独立行政法人情報通信研究機構理事長））で、研究期間は、平成12年度から平成17年度です。

会場：大講堂（安田講堂）

日時：12月9日（木）・10日（金）

参加費：無料（要参加登録）

講演者：舘暲教授

廣瀬通孝教授

苗村健助教授

Aarne Halme教授

Richard Satava教授

Greg Welch助教授

隈研吾教授

H P:

<http://www.star.t.u-tokyo.ac.jp/crest/index-j.htm>

大学院経済学研究科・経済学部

大学院経済学研究科金融システム専攻修士課程の学生募集について

募集

平成17年度東京大学大学院経済学研究科金融システム専攻修士課程の入学試験は、次のとおり実施される。

1. 受入予定人員

15名

2. 出願期間

2月9日（水）～2月16日（水）

（2月16日（水）の消印まで有効）

3. 試験期日

(1) 筆記試験 3月7日（月）

(2) 口述試験 3月10日（木）

生産技術研究所

生産技術研究所学術講演会・産学連携フォーラム合同講演会「教育と産学連携を通じた大学の社会貢献」のお知らせ

シンポジウム・講演会

大学の社会的役割には教育による人材の輩出と研究成果の社会への還元という二つの側面があることは言うまでもありません。最近の科学技術はますます高度化し、学生が大学を卒業して企業に就職するまでに習得すべき知識、技術の量は増加の一途を辿っています。このような状況下において、大学・大学院における学生の教育には、従来に比べて効率の良さや質の高さが求められています。

本合同講演会午前の部では、このような問題を最先端の学術研究の現場においてどのように克服していけば良いのかについて事例を紹介しながら議論し、午後の部では、産学連携に関する政府の方針を伺うとともに、生産技術研究所と産業界との連携における最近の活動として「持続型社会研究協議会」や「技術相談会」などについて紹介し、法人化後の大学が企業との共同作業を成功させるために必要な条件を探索していきたいと考えております。

開催日：1月27日（木）9：30～17：15

開催場所：駒場Iキャンパス 大学院数理科学研究科大講義室

プログラム

学術講演会「学術研究の最先端への学生参加」

9:30～9:55

基調講演「学術研究の最先端への学生参加」

大学院総合文化研究科長・教養学部長 浅島 誠

9:55～10:20

「産学官共同によるピークル研究プロジェクト」

国際・産学共同研究センター教授 須田 義大

10:20～10:45

「理論研究での大学院生の役割」大学総合教育研究センター長・大学院数理科学研究科教授 岡本 和夫
10:45～11:10

「画像処理による人間の行動の計測と理解」
生産技術研究所助教授 佐藤 洋一
11:10～11:35

「教養教育と先端研究との連携—駒場 I における試み—」大学院総合文化研究科教授 永田 敬
11:35～11:55

「学生教育への生産技術研究所の新しい試み—UROPI—」生産技術研究所助教授 大島 まり
11:55～12:40

「大学、大学院修了者への期待」(株)東芝執行役常務・研究開発センター所長 有信 睦弘
12:40～14:00

ポスターセッション
・生研学術成果パネル発表
・東京大学学生発明コンテスト入賞者パネル展示

産学連携フォーラム「大学と産業・社会との架け橋を担う生産技術研究所」

14:00～14:30
「産学連携の現状と課題」文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課長 根本 光宏

14:30～15:00
「産業技術政策の現状と課題」経済産業省産業技術環境局研究開発課長 中村幸一郎

15:00～15:30
「生産技術研究所が志向する社会・産業との新たな連携への架け橋」生産技術研究所長 西尾 茂文

(15:30～15:45 休憩)

15:45～16:30
「産学連携の課題と期待」
トヨタ自動車(株)専務取締役 岡本 一雄

16:30～17:15
「大学の本质と産学連携のあり方」
名誉教授 生駒 俊明

18:00～20:00
懇談会 (駒場ファカルティハウス)

< 司 会 >
午前の部 藤岡 洋 (生産技術研究所教授)
午後の部 畑中 研一 (国際・産学共同研究センター／生産技術研究所教授)

【参加費無料】

学術講演会 (午前の部)、産学連携フォーラム (午後の部)、懇談会への参加は事前登録が必要です。必ずお申し込みください。

【申込方法】

財団法人生産技術研究奨励会が、受付事務を代行いたします。氏名、会社名、所属等所定の事項を記載の上、FAXまたは電子メールにてお申し込みください (1月21日 (金) 締切)。詳細は、<http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/shourei>をご覧ください。

【申込先】

(財) 生産技術研究奨励会 産学連携支援室
〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1
Tel : 03-5452-6095 Fax : 03-5452-6096
Mail : fpistlo@iis.u-tokyo.ac.jp

主催 東京大学生産技術研究所
協力 財団法人生産技術研究奨励会

保健センター

年末年始の保健センターの診療日程のお知らせ

お知らせ

年末年始の保健センター各支所の診療日程は次のとおりです。

	年 末	新 年
本郷支所	12月27日(月)まで	1月6日(木)から
駒場支所	12月24日(金)まで	1月11日(火)から
柏支所	12月27日(月)まで	1月6日(木)から

総務部

広報センター年末年始休館日のお知らせ

お知らせ

広報センターは、下記のとおり休館させていただきます。
平成16年12月28日 (火)～平成17年1月4日 (火)
(1月5日 (水) 10時より開館いたします。)

人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（死 亡）			
	赤沼宏史	平成16年11月11日死亡	大学院総合文化研究科教授
（採 用）			
H16.11.16	天川裕史	海洋研究所附属先端海洋システム 研究センター海洋システム解析分 野助教授	
H16.12.1	秋下雅弘	大学院医学系研究科助教授	
H16.12.1	倉光 修	大学院教育学研究科教授	大阪大学大学院人間科学研究科教授
H16.12.1	佐藤文俊	生産技術研究所助教授	生産技術研究所産学官連携研究員
H16.12.1	伊賀啓太	海洋研究所助教授	九州大学応用力学研究所基礎力学部門助教授
（昇 任）			
H16.11.16	新田一郎	大学院法学政治学研究科教授	大学院法学政治学研究科助教授
H16.11.16	丸山茂夫	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
H16.11.16	佐藤隆一郎	大学院農学生命科学研究科教授	大学院農学生命科学研究科助教授
H16.11.16	富田章弘	分子細胞生物学研究所助教授	分子細胞生物学研究所助手
H16.12.1	川村隆文	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
H16.12.1	目黒公郎	生産技術研究所附属都市基盤安全工 学国際研究センター教授	生産技術研究所附属都市基盤安全工学国際研究 センター助教授
H16.12.1	鶴田 啓	史料編纂所教授	史料編纂所助教授

※採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

静寂から喧騒へーそして現実へ

先日、駒場博物館で開催されていた「第一高等学校創立130周年記念・駒場の歴史展」にふらっと立ち寄ってみた。常日頃は雑用に追われてキャンパス内をせかせかと早足で歩くのだが、研究室への道すがらふと博物館に足が向いたのは、折りしも開催中であった駒場祭の喧騒を避ける気持ちが働いたのだろう。あるいは、大学院時代の恩師から折々に聞く「一高(いちこう)」に少なからず興味を覚えたせいかもしれない。館中の静寂さと一高ゆかりの展示物が醸し出す空間は外とは全くの別世界であった。

さて、博物館を出て模擬店の呼び込みの声が溢れるキャンパスを歩きながら、徐々に現実の世界に引き戻されつつある頭に「大学とは一体何なのだろうか」という漠とした疑問が浮かんだのは何故か。それは今、大学がビジョンの见えない改革の真っ只中に置かれていることと無縁ではあるまい。昨今、「国立大学法人化」という制度改革と相俟って、社会は「役に立つ高等教育機関」としての役割を大学に

期待している。教育・研究に加えて産学連携や社会貢献が大学の使命とされ、即戦力となる専門家の育成や学内の知的リソースの還元・活用に大きな掛け声が掛かる。このような時代に即した要請に応えることは大学の重要な任務のひとつであり、それらひとつひとつの取組みは具体的、即効的であるがゆえに評価され易い。しかし、大学の教育機関としての真価は、毎年送り出し続けている卒業生によって長い年月をかけて社会に問うべきものであろう。

東京大学憲章はかく謳う。「広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者の精神をもった、各分野の指導的人格を養成する」と。声を嗚らして焼きそばを売る若者達に東京大学はどのようなメッセージを託して社会へ送り出そうとしているのか、そのためにどのような勉学の間を提供すべきなのか。産学連携や社会貢献の華々しさの影に隠れて、東京大学の教育に対する全体ビジョンは法人化後もなかなか見えてこない。

永田 敬 (大学院総合文化研究科)



(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

〔訂正〕

「学内広報」において一部誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

No.1301 (2004.11.24)

15ページ左段上から3行目

(誤) 10月27日(月) 16時30分 → (正) 11月2日(火) 17時30分

(誤) 東京大学弥生講堂一条ホール → (正) 武田先端知ビル武田ホール

15ページ左段上から5行目

(誤) 昨年度 → (正) 平成14年度

15ページ左段上から20行目

(誤) 同講堂会議室 → (正) 同ビルホワイト

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1303 2004年12月8日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393

e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO